

第 15 章 情報公開・説明責任

【目標】

財務情報等，自己点検・評価結果および外部評価結果の公開には，岡山理科大学ホームページ等を活用し，岡山理科大学の情報を広く一般へ発信する。

15.1 財政公開

【現状の説明】

本学では，消費収支総括表の大科目を大学広報誌「岡山理科大学通信」に掲載し，学生・保護者および教職員等に配付している。私立学校法の一部改正に伴って，学校法人加計学園寄附行為を改正し，財務情報等の公開の一層の推進を図っている。また，学園における情報公開の窓口を法人本部事務局総務部と指定し，学園と利害関係があると認められる者から財務情報について開示の申し立てがあった場合には，①財産目録 ②貸借対照表 ③資金収支計算書 ④消費収支計算書 ⑤事業報告書 ⑥監事による監査報告書等について閲覧又は写の交付により開示している。また，学園通信を発行し，財務情報の開示に努め開かれた学園を目指している。

【点検・評価】

広報紙での消費収支総括表の大科目の財務公開により，本学の財務状況の概要について知り得る状態にあるが，今後財務情報等の公開の一層の推進により，開かれた学園を目指しているところである。しかしながら，財務状況の概要については把握できるが，学校法人会計基準は企業会計と異なるため理解が得にくい面もあり，財務公開の効果には若干の問題点が残る。また，それらの情報の取り扱いについては「学校法人加計学園の保有する情報の公開に関する規程」を設け，厳重に管理し，適切に運営していると言える。

【改善・改革の方策】

財務情報等の公開に当たり，一般的に理解を得やすいように説明を加える等その内容や方法について工夫し，従来の広報誌等への掲載のみならずインターネットの活用等により財務情報を積極的に提供していくことが今後の課題である。

15.2 自己点検・評価

【現状の説明】

本学が独自に自己点検・評価した「岡山理科大学教育研究白書」第 1 版（1993 年度）～第 4 版（2001 年度）は，本文編とデータ編に分けて編纂され，学内はもとより，岡山県内外の近隣大学や公共機関へ送付され，製本形式で情報開示されている。また，「（財）大学基準協会」相互評価（1996 年度）のため同様の点検・評価報告書を提出し，認定（1997 年度）を受けている。

【点検・評価】

本学の自己点検・評価は教育研究水準の維持・向上を目指して 1990 年代から取り組まれ，その報告書は学内外へ開示されてきたが，製本形式の自己点検・評価報告書を配布する広報活動の手法は実作業上の限界があるため，送付先の範囲は近隣大学や公共機関をあわせて約 200 団体にとどまる。今後，本学の情報をより広範に発信することが望まれている。

【改善・改革の方策】

「大学基準協会」認証評価(2006年)では、自己点検・評価報告書および大学基礎データを岡山理科大学ホームページに掲載し、大学の情報を広く一般へ公開するとともに、CD媒体の形に変更して関係諸団体へ配布する予定である。

終章

大学設置に関する抑制方針の撤廃を主な契機として今日重要な課題となった大学の質の保証は、大学が競争的環境の中で大きな自由を獲得し学習者や社会の信頼を保持するために自らの個性・特色を明確にする上において必須である。と共に大学自らが高度の教育および学術研究の中心機関として適切な水準を維持するというこの使命の遂行は、大学が高等教育に大きな影響力をもつ社会内存在であることからしても、当然のことと考えられる。かかる視点より、2002年の学校教育法改正によって、2004年4月1日から大学の認証評価の受診が義務付けられたのである。岡山理科大学においては、昭和47年に大学基準協会による加盟判定審査によって正会員資格を受け、続いて1996年に同協会の相互評価を受け、大学基準に適合するという判定を得た。その間、およそ3年間隔で、自己点検・評価を実施し、その内容を『岡山理科大学教育研究白書』並びに『同別冊』として総括・公表してきたのである。

このたび、大学基準協会が文部科学省より認定評価機関として正式認証されたのを機に、岡山理科大学としては、相互評価の有効期限という形式的理由と、冒頭趣旨に基づく実質的な自己点検・評価の必要性から、上述のいわゆる第三者評価受診義務を果たすべく、ここに評価の基本となる報告書を提出するものである。この報告書は、2004年10月から現在に至る間に、岡山理科大学評価委員会の統括のもとに、各部局の全学的な協力のもとに作成された。形式を排して、本学の明日につながる実質的に有益な点検・評価並びに改善への方策・提言が様々にかつ率直に記載されている。

本学の創業者「加計 勉」名誉理事長は、高度に科学技術化・情報化・国際化した次代の知識基盤社会を見通し、新しい時代に要求される理工学の学際領域に着目し、理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、一人ひとりの創造能力の開発を目指す教育を本学の理念とした。また、青年期こそ自己の能力を可能な限り発揮・開発できる時代であり、国際世界や国、地域社会において協調と信頼に満ちた相互関係を確立しうる人間の育成、すなわち科学技術の創造で拓かれる輝かしい未来を目指して、常に清新な意欲に溢れ自らの人生を価値あるものにするために努力を傾注する、真摯で情緒豊かな人間的信頼に足る有為な人材を社会に送り出すことを、建学の理念ともしたのである。

本点検・評価報告書は、「理工学の教育・研究を基盤とした一人ひとりの創造能力の開発と意欲的で真摯な態度で社会を生きる強調と信頼に満ちた人間性の育成」を建学の理念・目的として、絶えざる改善と一層の充実・向上めざした今日までの本学の教育的営為と研究活動のすべてを総括している。この報告書に対して下されるこのたびの公正な評価が、岡山理科大学の今後進むべき道へより豊かな指針を与えてくださることを切に希望している。

岡山理科大学 評価委員会

職 名	氏 名
学長（委員長）	宮垣 嘉也
副学長（副委員長）	木村 宏
副学長（副委員長）	児玉 美智子
理学部長	大谷 楓男
工学部長	萬本 義徳
総合情報学部長	山本 英二
理学研究科長	竹中 茂夫
工学研究科長	金枝 敏明
総合情報研究科長	星野 卓二
法人事務局長	伊藤 敏夫
大学事務局長	内田 修心
大学事務局次長 （経理部長）	森前 清 （2004年度） 川原 秀幸 （2005年度）
庶務部長	亀井 秀人 （2004年度） 奥山 晃 （2005年度）
学生部長	斉藤 博 （2004年度） 竹内 渉 （2005年度）
就職部長	竹田 邦雄
教務部長	高見 敏弘
情報処理センター所長	堂田 周治郎 （2004年度） 大西 荘一 （2005年度）
図書館長	柴原 隆志
学外連携室長	滝 晨彦
企画入試部長	関 達也

点検評価報告書 編集委員会

職 名	氏 名
委員長	中島 聰
副学長	木村 宏
教務部長	高見 敏弘
教務部次長	山口 一裕
教務部次長	北川 文夫
学生部次長	黒田 正博
就職部次長	森 裕一
教務課長	三川 博

（2006年3月1日現在）